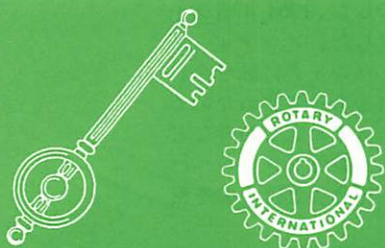


# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや  
ちくさ  
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号  
井上ビル4F D号  
Tel 763-5110  
会長 菊池昭元

No. 46 (1985-86)

あなたが 鍵です  
You are the Key

1985-86年度

RI会長 エドワード F. カドマン

第191回例会 昭和61年6月3日(火) 晴

- ◇ “君が代”
- ◇ “奉仕の理想”
- ◇ 出席報告”  

会員	59(58)名	出席	42名
出席率	72.41%		
前回	5月27日	(修正出席率)	100%

◇ ビジター紹介 10名

◇ お誕生日祝福

原君(5/28)、寺澤君(6/8)

◇ ニコボックス

吉田 節美君 先週は職業紹介させて頂き、有り難うございました。

小林 明君 名古屋市指定水道工事店協同組合の総会が無事終わり、副理事長に推挙されました。

水野 民也君 地区職業奉仕小委員長に委嘱されました。日本ボーリング場協会会長に就任(5/29)、日本カーリング協会副会長に就任(5/10)。ラベルボタン忘れました。

秋山 茂則君 去る5月28日60年度における郵便の利用協力に対し、東海郵便政局長より感謝状を頂きました。

原 富士雄君、寺澤 竹三郎君 お誕生日祝い。

小笠原 清君 結婚記念日祝い。

◇ 宮尾幹事報告

1. 本日例会終了後、次年度理事役員会を開催致しますので、次年度理事役員の方は2F橋の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、次年度各委員会正・副委員長会議を開催致しますので、各委員会正・副委員長の方はお残り下さい。
3. 第273地区大会(10/25)の御案内が来て居りますので、参加希望の方は事務局までお申し出下さい。
4. ロータリーの友6月号が来て居ります。お帰りにお持ち下さい。

◇ 福田ガバナーより委嘱状授与

水野 民也君: 職業奉仕研究小委員会小委員長

竹内 真三君: ロータリーの友委員会委員

深見 章君: 財団学友会小委員会委員

◇ 千種区青少年育成区民会議へ

事業活動資金を贈呈

◇ 千種区青少年育成区民会議会長より

感謝状の授与

◇ 菊池会長挨拶

さて、本日は童門冬二氏の書かれた「人間の魅力」に大変頭の良い人の話がありましたので御披露しましょう。この頭の良い人とは江戸城(皇居)を造った戦国大名であり、歌の道にも明るかった事で有名な太田道灌です。或る日武蔵野へ狩りに出た時、夕立ちに降られ、一軒の荒屋に飛び込み「雨具を貸してくれ」と言うと、その家の娘は恥ずかしそうに山吹の花を差し出したと言うエピソードはよく知られて居ます。娘は雨具はないとも言えず、“七重八重花は咲けども山吹の実の(裏)ひとつだになきぞ悲しき”と言う古歌を暗示したのです。道灌と言うのは法号で名を資長と云って子供の頃から大変な利口者で、特に屁理屈を言う事が得意でした。真面目な資長の父は自分の座右銘として「おごる者は久しからず」と言う軸をかけて居ましたが、その脇に「おごらない者も又、久しからず」と悪戯書きをし、父はほとんど資長の屁理屈には閉口して居たと言う事です。然し彼は子供の時から人間を見抜く能力が鋭く歌道にも勤しみ、時の天皇や公家達も「関東の武士はがさつで無教養な者が多いが、太田資長だけは別である。」と評価されました。又、彼の歌心は単に趣味の段階に止まらず、部下の管理戦術等にも積極的に活用されました。戦いで資長の軍が夜、利根川を渡ろうとした時、「耳を澄まして波の音を探がせ、も

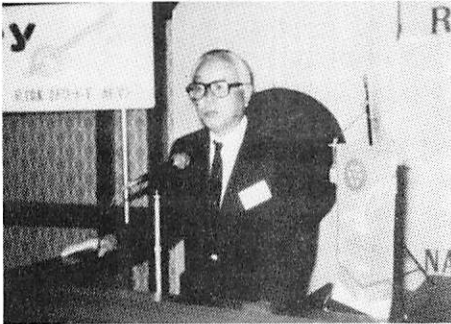
し波の音が聞こえたらそこを渡れ。」と指示すると、「なぜ波の音が聞こえる所で川が渡れるのですか。」と部下は聞き返した。「古歌に“そこひなき洲やは騒ぐ山川の浅き瀬にこそ徒浪は立て”とある様に、浅い所程波の音が高いのだ。」と教えたと言う事です。又主人の上杉定正が海辺の道を進軍したいので潮が引いたかどうか見て来いと命ずると、資長は動かずじっと聞き耳をたて、やがて「潮は引きつつあります。」と言った。定正は見にも行かずになぜわかるかと詰問すると、資長は「古歌に“遠くなり、近くなるみの浜千鳥、鳴く音に潮の満干を知る”とあります。今や千鳥の声が次第に遠ざかって居るのは潮が引いて居るからで、歌はこの様に役に立ちます。」と答えた。そして潮は引き、上杉軍は安全に目的地に行く事が出来たと言う事です。太田道灌は学んだ歌を私物化せず公有化し、斯くして歌人として、又、一流の武将としてその名が高まったのであります。よく頭は使いようとも言われます。趣味を実益に生かし、仲々味のある生き方を送った頭の良い道灌をご紹介致しました。

◇講 演

“私と写真”

東海テレビ事業協会長

中林 健自 氏 (紹介 宮尾君)



写真は誰でも子供の時から撮っていますね。私共の周りには電気が必要のように、写真が氾濫しています。すべてが写真の世話になっています。気がつかないけれど文化生活に写真はなくてはならないものです。ただ写真はCM用又は記念写真、メモリー用等さまざまですが、私は趣味は死ぬまで必要なものであると思うのです。ゴルフも私はかなりやりました。なんでもそうですが夢中にならないと上手にはなれませんね。ゴルフはハンディキャップを追いかけるもので、追いかけるようになったらつまらなくなります。体は疲れますし、情なくなります。幸い写真と言うものがあって私はクラブを持つ手をシャッターに変えたのです。私が写真を始めたのは20才代でした。戦争前の日本のカメラは玩具で

した。何といってもドイツのカメラです。しかし高価で買えませんでした。1954年頃ライカM3と言うのを買いました。アンティークカメラです。ライカのメカニクに魅せられ又戦中持てなかった憧れもあって始めたのです。京都・奈良から始まってお庭やお寺など2万枚ぐらい撮りました。最近ブラジルへ行って「純朴な人達とその生活」と言うのを撮って廻りました。

富士山は15年ほど前から撮っていますが郷愁のようなもので、傍に行きたい、そしてカメラに納めたいと思って撮り続けました。“富士山をめぐる”“ザ富士山”と銘うって写真展を持ちましたが40点50点となると同じ場所からのものばかりでは出せません。

写真とは絵描きさんと同じで凝視しないと撮れない。モチーフとの心の交流がないとシャッターが押せない。富士山とは普遍的なんですね。誰でも知っている、しかし写真はシャッターを切った時の感動を見ただ方に感じさせる、こんなすばらしい事はないと思います。

今度オーストラリアへ行って花を撮ってきます。私は来年70才になりますが天寿を全うするまで撮り続けたい、それが生甲斐です。

5月30日の中日新聞に65才以上が10%を超えたと載っていました。誰でも65才になります。そこで何をするか問題なのです。

最近私は太閤秀吉を読みました。舟橋聖一の「太閤記」です。軟文学の大家ですから、伝記でなく心理学的な面、哲学的な面が非常に面白い。それを見ると実に晩年はかわいそうなものですね。富も地位も最高のものをかちとり美女側室に囲まれ誰もが羨望しているのに60才を過ぎた彼は誰にも相手にされず晩年は哀れそのものです。

モチーフは何処にでもあり、又、写真は何処でも撮れます。富士山は難しいですよ。顔を出さない、出した時の嬉しい事。撮る以上に見る事の素晴らしさを感じます。何でもよいから仕事以外に興味を持つ。秀吉は趣味をもたなかったからかわいそうなのです。

私はカメラを通して自分の心に焼ついた感動を写真に残したい、それが私の生甲斐です。

(文責 木全)

◇例会変更のお知らせ

名古屋守山RC 6/14(日)「ファイヤーサイドミーティング」の為、6/13(金)円庄にて16:30より

名古屋名東RC 6/17(火)クラブ創立記念例会の為、6/20(金)18:00より

◇次回例会(6月10日)

講演 “美味しいワインは何故生まれるか”  
ワイン評論家

金井 実 氏 (紹介 浅井君)